様式第１号

令和元年　7 月 23 日

文部科学大臣　殿

学校法人就実学園

理事長　　西井泰彦

大学等における修学の支援に関する法律第７条第１項の確認に係る申請書

○申請者に関する情報

大学等の名称	就実短期大学
大学等の種類 （いずれかに○を付すこと）	（大学・短期大学・高等専門学校・専門学校）
大学等の所在地	岡山県岡山市中区西川原 1-6-1
学長又は校長の氏名	片岡洋行
設置者の名称	学校法人　就実学園
設置者の主たる事務所の所在地	岡山県岡山市中区西川原 1-6-1
設置者の代表者の氏名	西井泰彦
申請書を公表する予定のホームページアドレス	https://www.shujitsu.ac.jp/about/torikumi/

大学等における修学の支援に関する法律（以下「大学等修学支援法」という。）第７条第１項の確認を申請します。

※ 以下の事項を必ず確認の上、すべての□にレ点（☑）を付けて下さい。

☑　この申請書（添付書類を含む。）の記載内容は、事実に相違ありません。

☑　確認を受けた大学等は、大学等修学支援法に基づき、基準を満たす学生等を減免対象者として認定し、その授業料及び入学金を減免する義務があることを承知しています。

☑　大学等が確認を取り消されたり、確認を辞退した場合も、減免対象者が卒業するまでの間、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。

☑　この申請書に虚偽の記載をするなど、不正な行為をした場合には、確認を取り消されたり、交付された減免費用の返還を命じられる場合があるとともに、減免対象者が卒業するまでの間、自らが費用を負担して、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。

☑　申請する大学等及びその設置者は、大学等修学支援法第７条第２項第３号及び第４号に該当します。

○各様式の担当者名と連絡先一覧

様式番号	所属部署・担当者名	電話番号	電子メールアドレス
第１号	総務課　長野	086-271-8111	soumu@shujitsu.ac.jp
第２号の１	教務課　井原	086-271-8120	kyoumu@shujitsu.ac.jp
第２号の２	法人総務課　神宝	086-271-8117	honbu@shujitsu.ac.jp
第２号の３	教務課　井原	086-271-8120	kyoumu@shujitsu.ac.jp
第２号の４	総務課　長野	086-271-8111	soumu@shujitsu.ac.jp

○添付書類

※ 以下の事項を必ず確認し、必要な書類の□にレ点（☑）を付けた上で、これらの書類を添付してください。（設置者の法人類型ごとに添付する資料が異なることに注意してください。）

「⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置」関係

☑　実務経験のある教員等による授業科目の一覧表《省令で定める単位数等の基準数相当分》

☑　実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書（シラバス）《省令で定める単位数等の基準数相当分》

「⑵-①学外者である理事の複数配置」関係

☑　《一部の設置者のみ》大学等の設置者の理事（役員）名簿

「⑵-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置」関係

□　《一部の設置者のみ》大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織に関する規程とその構成員の名簿

「⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表」関係

☑　客観的な指標に基づく成績の分布状況を示す資料

☑　実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書（シラバス）【再掲】

その他

☑　《私立学校のみ》経営要件を満たすことを示す資料

☑　確認申請を行う年度において設置している学部等の一覧

（添付書類）経営要件を満たすことを示す資料

学校名	就実短期大学
設置者名	学校法人　就実学園

Ⅰ　直前３年度の決算の事業活動収支計算書における「経常収支差額」の状況

	経常収入(A)	経常支出(B)	差額(A)-(B)
申請前年度の決算	6,320,182,582 円	6,132,153,658 円	188,028,924 円
申請２年度前の決算	6,228,120,472 円	5,792,786,015 円	435,334,457 円
申請３年度前の決算	6,267,430,583 円	5,869,319,243 円	398,111,340 円

Ⅱ　直前の決算の貸借対照表における「運用資産－外部負債」の状況

	運用資産(C)	外部負債(D)	差額(C)-(D)
申請前年度の決算	7,942,028,434 円	2,683,852,913 円	5,258,175,521 円

Ⅲ　申請校の直近３年度の収容定員充足率の状況

	収容定員(E)	在学生等の数(F)	収容定員充足率 (F)/(E)
今年度（申請年度）	360 人	374 人	103%
前年度	360 人	389 人	108%
前々年度	360 人	389 人	108%

（Ⅱの補足資料）「運用資産」又は「外部負債」として計上した勘定科目一覧

○「運用資産」に計上した勘定科目

勘定科目の名称	資産の内容	申請前年度の決算における金額
第２号基本金引当特定資産	一般担保付社債	80,000,000 円
記念事業引当特定資産	公共債・一般担保付社債	329,000,000 円
退職給与引当特定資産	公共債・一般担保付社債	387,200,000 円
施設設備拡充引当特定資産	一般担保付社債	100,000,000 円
有価証券	公共債・一般担保付社債	1,803,549,600 円
現金預金	定期預金・普通預金・現金	5,242,278,834 円

○「外部負債」に計上した勘定科目

勘定科目の名称	負債の内容	申請前年度の決算における金額
長期借入金	金融機関からの借入金	2,129,155,000 円
短期借入金	１年以内に返済する金融機関からの借入金	222,504,000 円
未払金	退職金・私学共済掛金等その他経費	332,193,913 円

様式第２号の１－①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の１－②を用いること。

学校名	就実短期大学
設置者名	学校法人　就実学園

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
	幼児教育学科	夜・通信	0	0	8	8	7	
	生活実践科学科	夜・通信			8	8	7	
（備考）								

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表については、ホームページの「教育情報の公表」の「教員組織に関すること」内にPDFファイルとして公表している。
https://www.shujitsu.ac.jp/assets/files/about/torikumi/kouhyo/file03/file08.pdf

３．要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
（困難である理由）

様式第２号の２－①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	就実短期大学
設置者名	学校法人　就実短期大学

１．理事（役員）名簿の公表方法

学園要覧に掲載すると共に、ホームページの「就実学園について」内の「役員一覧」にPDF ファイルとして公表している。
https://www.shujitsu.ac.jp/assets/files/about/gakuen/about/file4.pdf

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	（学）岡山外語学院 学院長	2016 年 2 月 22 日～2020 年 2 月 21 日	学校法人の業務を決し、理事の職務の執行を監督する。
非常勤	公益財団法人　日本教育公務員弘済会 岡山支部長	2016 年 2 月 22 日～2020 年 2 月 21 日	学校法人の業務を決し、理事の職務の執行を監督する。
非常勤	RSK ホールディングス 代表取締役社長	2019 年 1 月 1 日～2020 年 2 月 21 日	学校法人の業務を決し、理事の職務の執行を監督する。
非常勤	（一社）岡山県薬剤師会 常務理事	2017 年 6 月 28 日～2020 年 2 月 21 日	学校法人の業務を決し、理事の職務の執行を監督する。
非常勤	岡山市立岡輝中学校	2016 年 2 月 22 日～2020 年 2 月 21 日	学校法人の業務を決し、理事の職務の執行を監督する。
（備考）			

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	就実短期大学
設置者名	学校法人　就実学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。

（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要）

教務課がシラバス作成要領を整備し、FD 研修会を開催して授業の方法及び内容、授業計画、到達目標、成績評価の方法・基準、実務経験のある教員による授業科目の有無、その他の必要事項を記載したシラバスを作成するよう教務部長が説明し、教員への周知徹底を図っている。シラバス作成から公表までのプロセスは以下の通りである。

12 月初旬から１月中旬の間に Web 上にて教員が担当科目のシラバスを作成し、入力完了後、教務課が事務的なチェックを行う。教務課でのチェック完了後、各学科の教務委員及び教務部長がシラバスの記載事項の点検を行い、指摘事項がある場合は学科長から授業担当者へ修正指導する。その後、３月下旬にホームページに公表する。

各科目のシラバスは、以下の「授業計画書の公表方法」欄に示すホームページアドレス（シラバス検索）から、講義名称等を入力することで閲覧でき、このことは学生にも周知している。

授業計画書の公表方法	https://www1.shujitsu.ac.jp/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx

２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）

単位の授与は「就実短期大学学則」において、「授業科目を履修し、その試験に合格した者には、所定の単位を与える。」（第 13 条）と定めている。成績評価については、「試験の成績は、100 点をもって最高とし、60 点以上を合格とする。」（第 16 条）、また「成績の標語は、90 点以上を秀、80 点以上を優、70 点以上を良、60 点以上を可とし、60 点未満を不可とする。」（第 17 条）としている。

成績の評価方法は、それぞれの授業科目に応じて、筆記・口述・レポート・論文・作品の製作・実技などの評価項目で行う。特別な事由により試験を受けられなかった場合は追試験を行い、試験で不合格の場合には規定に則り再試験を行う。他大学等で修得した科目については、互換性を厳格に精査して、所定の範囲内で単位を認定している（https://www.shujitsu.ac.jp/assets/files/students/file05/file02.pdf）。

こうした評価方法は、教養科目・専門教育科目のいずれについても、評価基準並びに課題に対するフィードバックの方法とともに各評価項目の寄与率を提示して各科目のシラバスに明記し、Web 上に公開して学生に周知した上で、厳格かつ適正に単位を授与している。

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）

本学では、学則で定める試験等による成績評価の他、多面的な評価を行うために、各学生の成績が所属する学科でどの位置にあるかを把握できるよう、客観的な成績の指標として GPA 制度を導入している。その目的、成績評価に対応する GP の設定、GPA の算出方法、利用法については、『履修要覧』及びホームページで公表している。

GP 値は、成績評価が 90～100 点（秀）を 4 点、80～89 点（優）を 3 点、70～79 点（良）を 2 点、60～69 点（可）を 1 点、0～59 点（不可）を 0 点とし、GPA は次式より算出している。

$$\text{GPA}=\frac{(\text{履修登録科目で得た}\ \ \text{GP}\times\text{その科目の単位数})\ \text{の}\ \ \text{合計}}{\text{履修登録科目の単位数}\ \ \text{の合計}}$$

対象科目については、各学科で定めており、履修指導の際に説明して学生に周知している。GPA は、成績証明書や成績表には記載せず、別途配付している。GPA によって学修状況が把握できるため、GPA の分布状況と降順一覧を作成して学科へ提供し、半期ごとに各学期末の学科会議で学生の GPA の分布状況、出席状況等を確認し、次の学期に向けた学生の履修指導を行うこととしている。これについても『履修要覧』の各学科の説明ページに記載している。

添付資料として、2018 年度の各学科における 1 年次生の GPA 分布を示す。下位 4 分の 1 を示す 1 年次生は、GPA 値が幼児教育学科 2.82 以下、生活実践科学科 2.65 以下であった。

客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.shujitsu.ac.jp/assets/files/students/file05/file02.pdf

４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）

卒業については、「就実短期大学学則」において「２年以上在学し、第 22 条に定める授業科目及び単位数を修得した者については、教授会の意見を聴き、学長が卒業を認定する。」（第 25 条）と定め、卒業の要件を 62 単位以上修得すること（第 22 条）としている。以下の通り、各学科の教育研究上の目的に基づき、それぞれ卒業認定及び学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を策定し、卒業に必要な単位数と合わせて履修要覧やホームページに公表し、教職員・学生にも周知して公正かつ厳格に卒業を認定している。

〇幼児教育学科

幼児教育学科では、短期大学のディプロマ・ポリシーを踏まえ、「子どもの心」を感じ「子どもをみる眼」を持ち、保育者（保育士・幼稚園教諭等）に求められる基本的な知識・技術・実践力を涵養する。この目的を達成するために、幼稚園教諭二種免許状取得のための単位及び学科の定める単位を修得し、次の学習成果を身につけた者に短期大学士（幼児教育）の学位を授与する。

１．保育を取り巻く環境や動向を理解し、問題解決に向けて知識を活かすことができる
２．保育者としての専門的知識及び技能を身につけ、実践及び指導できる
３．社会人基礎力を有し、地域社会に貢献することができる
４．保育者としての責任感と倫理観を持ち、堅実に物事に取り組むことができる

○生活実践科学科 　生活実践科学科においては、各授業で 60 点以上の評価を得たものを単位修得として認め、本学科の教育目標に基づき設定された授業科目を 62 単位以上修得し、下記学修成果を身につけた者に対し、短期大学士（生活実践科学）の学位を授与する。 １．豊かな人間性と社会性、倫理性を支える幅広い教養を身につけている ２．衣・食・住をはじめとする、生活に必要な基礎知識・技術を身につけている ３．家庭や社会で円滑な人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている ４．生活者として生活に関するさまざまな問題について、自ら考え解決することができる ５．社会の変化に対応し、健康で豊かな生活を創造しようとする意欲と態度を身につけている ６．社会人基礎力を有し、地域社会に貢献することができる 　本学の所定の単位（62 単位以上）を修め、次の学修成果を身につけた学生に卒業を認定し、学位を授与する。 １．「去華就実」の精神に基づき、「実地有用」の人材として社会で活躍できる ２．専門的な知識や技術を身につけ、自ら問題解決をすることができる ３．地域社会が必要とする常識と応用力を備えた社会人基礎力が身についている	
卒業の認定に関する方針の公表方法	https://www.shujitsu.ac.jp/about/rinen/tandaipolicy/

様式第２号の４－①【⑷財務・経営情報の公表（大学・短期大学・高等専門学校）】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の４－②を用いること。

学校名	就実短期大学
設置者名	学校法人　就実学園

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.shujitsu.ac.jp/assets/files/about/gakuen/financial/H30/file5.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.shujitsu.ac.jp/assets/files/about/gakuen/financial/H30/file2.pdf https://www.shujitsu.ac.jp/assets/files/about/gakuen/financial/H30/file4.pdf
財産目録	https://www.shujitsu.ac.jp/assets/files/about/gakuen/financial/H30/file6.pdf
事業報告書	https://www.shujitsu.ac.jp/assets/files/about/gakuen/financial/H30/file1.pdf
監事による監査報告（書）	https://www.shujitsu.ac.jp/assets/files/about/gakuen/financial/H30/file7.pdf

２．事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：　　対象年度：　　）	
公表方法：	
中長期計画（名称：　　対象年度：　　）	
公表方法：	

３．教育活動に係る情報

（１）自己点検・評価の結果

公表方法：
https://www.shujitsu.ac.jp/assets/files/about/torikumi/hyouka/file02/file01.pdf

（２）認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：
https://www.shujitsu.ac.jp/assets/files/about/torikumi/hyouka/file02/file02.pdf

（３）学校教育法施行規則第 172 条の２第１項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名　幼児教育学科
教育研究上の目的（公表方法：履修要覧及びホームページ） https://www.shujitsu.ac.jp/assets/files/students/file01/file05.pdf　【履修要覧 51 ページ】
（概要） 人間性の豊かさ、自主性の促進を重視し、カリキュラム内だけでなく、課外自主活動の積極的支援も行い、保育者としての資質の向上を図ることを教育目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：履修要覧及びホームページ） https://www.shujitsu.ac.jp/department/tanki/yojikyoiku/policy.html
（概要） 幼児教育学科では、短期大学のディプロマ・ポリシーを踏まえ、「子どもの心」を感じ「子どもをみる眼」を持ち、保育者（保育士・幼稚園教諭等）に求められる基本的な知識・技術・実践力を涵養する。 この目的を達成するために、幼稚園教諭二種免許状取得のための単位及び学科の定める単位を修得し、次の学習成果を身につけた者に短期大学士（幼児教育）の学位を授与する。 １．保育を取り巻く環境や動向を理解し、問題解決に向けて知識を活かすことができる ２．保育者としての専門的知識及び技能を身につけ、実践及び指導できる ３．社会人基礎力を有し、地域社会に貢献することができる ４．保育者としての責任感と倫理観を持ち、堅実に物事に取り組むことができる
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：履修要覧及びホームページ） https://www.shujitsu.ac.jp/department/tanki/yojikyoiku/policy.html
（概要） 幼児教育学科では、短期大学のカリキュラム・ポリシーを踏まえ、「子どもの心」を感じ「子どもをみる眼」を持ち、基本的な知識・技術・実践力のある保育者（保育士・幼稚園教諭等）を育成する。この目的を達成するために、専門科目を体系的に配置した教育課程を編成する。さらに課外自主活動の場の提供及び積極的支援を行い、カリキュラムで修得した知識・技術・実践力を磨くことができるように配慮する。 １．教養教育を通して、豊かな人間性と社会性、倫理性を支える広い教養を育成する ２．専門教育を通して、保育者に必要な専門的な知識・技術・実践力を育成する ３．「初年次教育」を通して、必要な学習技術と基礎的な社会常識やマナー、態度を育成する ４．授業科目、実習、課外活動を通して、問題解決の方法をさぐり、社会人基礎力を育成する ５．理論と実践の融合を重視した実習指導を２年間通じて配置する ６．自己表現力、問題解決力、コミュニケーション力を育成する少人数制の演習科目を配置する ７．子育て支援ボランティア活動及び研究大会への参加の場を設け、実践力を育成する機会を提供する ８．学生が学科行事に関わり、企画・立案・実施に主体的に参加する機会を設ける ９．各科目のシラバスに定める成績評価基準によって行う

入学者の受入れに関する方針（公表方法：履修要覧及びホームページ） https://www.shujitsu.ac.jp/department/tanki/yojikyoiku/policy.html
（概要） 幼児教育学科では、短期大学のアドミッション・ポリシーを踏まえ、本学科の目標と特性を理解した以下の入学者を求めている。 １．人が好きで、保育者として社会に貢献したいと考えている人 ２．自ら考え、行動し、誠実に問題解決をしようとする人 ３．人と交流することに楽しみを感じ、社会のルールを守り協調する気持ちのある人 ４．難しいこと・苦手なことにも、チャレンジしたり努力したりする意欲のある人 ５．入学後の修学に必要な高等学校卒業相当の基礎学力を有している人

学部等名　生活実践科学科
教育研究上の目的（公表方法：履修要覧及びホームページ） https://www.shujitsu.ac.jp/assets/files/students/file01/file05.pdf　【履修要覧 51 ページ】
（概要） 生活者として必要な基本的な知識・技術・実践力を身につけ、より広い視野で現代生活に関わる様々な問題に対して、自ら問題解決を行おうとする意欲のある人材の育成を教育目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：履修要覧及びホームページ） https://www.shujitsu.ac.jp/department/tanki/seikatsujissen/policy.html
（概要） 生活実践科学科においては、各授業で 60 点以上の評価を得たものを単位修得として認め、本学科の教育目標に基づき設定された授業科目を 62 単位以上修得し、下記学修成果を身につけた者に対し、短期大学士（生活実践科学）の学位を授与する。 １．豊かな人間性と社会性、倫理性を支える幅広い教養を身につけている ２．衣・食・住をはじめとする、生活に必要な基礎知識・技術を身につけている ３．家庭や社会で円滑な人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている ４．生活者として生活に関するさまざまな問題について、自ら考え解決することができる ５．社会の変化に対応し、健康で豊かな生活を創造しようとする意欲と態度を身につけている ６．社会人基礎力を有し、地域社会に貢献することができる
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：履修要覧及びホームページ） https://www.shujitsu.ac.jp/department/tanki/seikatsujissen/policy.html
（概要） 生活実践科学科では、生活者として必要な基本的な知識・技術・実践力を身につけ、より広い視野で現代生活に関わる様々な問題に対して、自ら問題解決を行おうとする意欲ある人材の育成を教育目標としている。この教育目標を達成するために、次の方針を基に教育課程を編成し実施する。 １．教養教育を通して、豊かな人間性と社会性を育み、倫理性を支える広い教養を育成する ２．専門教育を通して、衣・食・住をはじめとする、生活に必要な知識・技術を育成する

３．少人数制の演習科目により、家庭や社会で円滑な人間関係を構築できるコミュニケーション能力を育成する ４．生活者として生活に関するさまざまな問題について、自ら考え解決できる人間を育成する ５．実習・演習を通して健康で豊かな生活を創造しようとする意欲と態度を育成する ６．講義・実習・演習を通して、社会人基礎力を育成する ７．学生の教育評価は各科目のシラバスに定める成績評価基準によって行う
入学者の受入れに関する方針（公表方法：履修要覧及びホームページ） https://www.shujitsu.ac.jp/department/tanki/seikatsujissen/policy.html
（概要） 生活実践科学科の教育理念を理解した、次のような人材を受け入れる。 １．衣・食・住をはじめとする家庭生活、および社会生活の質の向上に関心がある人 ２．生活に関する問題について、自ら考え解決しようとする意欲がある人 ３．協調性・柔軟性があり思いやり深く、地域社会に貢献したいと考えている人 ４．家庭や社会で円滑な人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけたいと考えている人 ５．入学後、授業・学生生活、特に実践力を身につけるために実習・演習などを履修し積極的に取り組みたいと考えている人 ６．入学後の修学に必要な高等学校卒業相当の基礎学力を有している人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法： https://www.shujitsu.ac.jp/assets/files/about/gakuen/about/file3.pdf

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）

学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手その他	計
幼児教育学科	0 人	4 人	3 人	3 人	0 人	0 人	10 人
生活実践学科	0 人	3 人	4 人	2 人	0 人	0 人	9 人

b. 教員数（兼務者）

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
4 人	44 人	48 人

各教員の有する学位及び業績（教員データベース等）	公表方法： https://www.shujitsu.ac.jp/department/tanki/yojikyoiku/ https://www.shujitsu.ac.jp/department/tanki/seikatsujissen/

c. ＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

2018 年度は、研修内容として、初年次教育、退学・除籍及び留年に関する調査結果、シラバス作成要領について、2 回の FD 研修会を開催した。

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学定員	編入学者数
幼児教育学科	100 人	99 人	99%	200 人	193 人	96%	0 人	0 人
生活実践科学科	80 人	89 人	111%	160 人	181 人	113%	0 人	0 人
合計	180 人	188 人	104%	360 人	374 人	103%	0 人	0 人

（備考）

b. 卒業者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
幼児教育学科	101 人 (100%)	6 人 (5.9%)	93 人 (92.1%)	2 人 (2.0%)
生活実践科学科	94 人 (100%)	2 人 (2.1%)	83 人 (88.3%)	9 人 (9.6%)
合計	195 人 (100%)	8 人 (4.1%)	176 人 (90.3%)	11 人 (5.6%)

（主な進学先・就職先）（任意記載事項）

各学科の主な進学先・就職先を含む就職実績を、下記のホームページに公表している。

（備考） https://www.shujitsu.ac.jp/careershinro/jisseki/

c.修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
幼児教育学科	107 人 (100%)	100 人 (93.5%)	0 人 (0%)	7 人 (6.5%)	0 人 (0%)
生活実践科学科	101 人 (100%)	92 人 (91.1%)	2 人 (2.0%)	7 人 (6.9%)	0 人 (0%)
合計	208 人 (100%)	192 人 (92.3%)	2 人 (1.0%)	14 人 (6.7%)	0 人 (0%)
（備考）					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要）

授業科目、授業の方法及び内容並びに授業計画については、カリキュラム・ポリシーに基づいてそれぞれシラバスに記載し、Web 上に公開している。教務課が全学共通のシラバス作成要領を整備し、各教員が担当科目について、授業の方法及び内容、授業計画、到達目標、成績評価の方法・基準、実務経験のある教員による授業科目の有無、その他の必要事項を記載したシラバスを作成している。

学生は、Web 上のシラバス検索画面から、講義名称等を入力することで閲覧でき、授業内容とその方法を理解して予習・復習に役立てており、試験や成績評価についても確認している。

年間の授業計画は、学年歴や時間割表で確認でき、また科目間の系統性や順次性、ディプロマ・ポリシーへの対応については、履修要覧に記載したカリキュラムツリーやカリキュラムマップで確認できるようになっており、年間の履修計画に活用されている。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）

成績評価については、「試験の成績は、100 点をもって最高とし、60 点以上を合格とする。」（第 16 条）、また「成績の標語は、90 点以上を秀、80 点以上を優、70 点以上を良、60 点以上を可とし、60 点未満を不可とする。」（第 17 条）としている。

成績の評価方法は、それぞれの授業科目に応じて、筆記・口述・レポート・論文・作品の製作・実技などの評価項目で行う。特別な事由により試験を受けられなかった場合は追試験を行い、卒業年次に試験で不合格の場合には不足単位が 6 単位以内であれば再試験を行う。他大学等で修得した科目については、互換性を厳格に精査して、所定の範囲内で単位を認定している。

(https://www.shujitsu.ac.jp/assets/files/students/file05/file02.pdf)

こうした評価方法は、教養科目・専門教育科目のいずれについても、評価基準並びに課題に対するフィードバックの方法とともに各評価項目の寄与率を提示して各科目のシラバスに明記し、Web 上に公開して学生に周知した上で、厳格かつ適正に単位を授与している。

卒業については、「就実短期大学学則」において「２年以上在学し、第 22 条に定める授業科目及び単位数を修得した者については、教授会の意見を聴き、学長が卒業を認定する。」（第 25 条）と定め、卒業の要件を 62 単位以上修得すること（第 22 条）としてい

る。各学科の教育研究上の目的に基づき、それぞれ卒業認定及び学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を策定し、卒業に必要な単位数と合わせて履修要覧やホームページに公表し、教職員・学生にも周知して公正かつ厳格に卒業を認定している。

学部名	学科名	卒業に必要となる単位数	ＧＰＡ制度の採用（任意記載事項）	履修単位の登録上限（任意記載事項）
	幼児教育学科	62 単位	(有)・無	単位
	生活実践科学科	62 単位	(有)・無	単位
ＧＰＡの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報（任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：
https://www.shujitsu.ac.jp/assets/files/about/gakuen/about/file7.pdf

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料（年間）	入学金	その他	備考（任意記載事項）
短期大学	幼児教育学科	450,000 円	250,000 円	350,000 円	
	生活実践科学科	450,000 円	250,000 円	350,000 円	

＊2019 年度の金額を入れています。
＊その他は、本学「教育充実費」の年額を入れています。

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組の概要

本学では、学生支援の基本方針を「就実大学・就実短期大学は、「去華就実」の基本理念に基づき、創造性・主体性・実践力を備えた人間性豊かな人材の育成を目標として、全学が協力し、すべての学生に対して、適切な修学支援、学生生活支援、キャリア支援を行う。」と定めており、ホームページ上にも公表している。
（https://www.shujitsu.ac.jp/about/rinen/gakuseipolicy.html）

上記の、学生支援の基本方針に基づき、修学支援方針を以下のように定めている。

- 円滑な学修が継続できる指導・相談体制を整える。
- 留年、休学、退学する学生の状況把握と分析に基づいて実効性のある支援を行う。
- 障がいのある学生一人ひとりに応じた支援を着実丁寧に行う。
- 海外留学・語学研修・国際交流を積極的に支援する。

これらの支援を実施するために、学生一人ひとりの学業や学生生活における質問や相談に応じ、あるいは指導を行うため、クラス担任、オフィスアワーの体制を整えている。また、障がい者学修支援委員会と連携を図り、ノートテイク等、学生からの具体的な要望に応えている。国際交流委員会では、海外研修協定校への留学や国際交流活動の支援、海外研修奨学金制度で参加者のサポートを行っている。

b. 進路選択に係る支援に関する取組の概要

本学では上記の、学生支援の基本方針に基づき、キャリア支援方針を以下のように定めている。

- 学生の社会的・職業的な自立に向け、主体的に人生をデザインし、進路選択するための知識、能力、態度を育成することを目指してキャリア支援を行う。
- 学生の希望する進路選択を実現するため、一人ひとりに応じた就職支援を着実丁寧に行う。
- 初年次教育との連携を図り、低年次からのキャリア形成に向けて支援を行う。

これらの支援を実施するために、キャリアセンターでは、低年次からのキャリアガイダンス、年間 30 回程度の就職ガイダンス・就職セミナーの開催、エントリシート・履歴書添削・模擬面接などの個別対応、資格取得のための課外講座、キャリアカウンセラーによる進路面談などを実施している。また、保育・教職支援センターでは、幼保及び教員採用試験対策講座、公立幼稚園教諭・保育士公務員試験対策講座を開講し、支援している。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組の概要

本学では、上記の学生支援の基本方針に基づき、学生生活支援方針を以下のように定めている。

- 学生が心身ともに安定した学生生活が送ることができるよう、学生のニーズに応える実効性のある支援を行う。
- 学生が経済的事情により休学や退学に陥らないよう、奨学金の充実を図る。
- 学生の自主的な活動を奨励し、学友会、クラブ・サークル、ボランティア等の正課外活動や社会活動を積極的に支援する。

これらの支援を実施するため、次の取り組みを行っている。

・身体及びメンタル上の問題があり、支援を申請した学生に対しては、障がい者学修支援委員会において合理的配慮を検討し、学長名で学生本人及び教員、事務員に周知し全学的支援に取り組んでいる。また、委員会適用外の多様かつ複雑なケースについては、学科及び保健管理センターにおいて個別的な対応に当たっている。

・学生の心身の健康保持増進に資するために毎年健康診断を実施し、必要時には精神科医を含む学校医からの助言を仰ぎ、適切な事後措置を行っている。

・学生相談室のカウンセラー（３名交代）が、毎日午後、学生の勉学、人間関係などのメンタル面での相談に当たり、必要に応じて、医療機関受診の勧め、及び医療機関の紹介を行っている。

・年に複数回、精神科校医による定期的な学生相談日を設け、早期の問題発見と適切な外部専門機関への結びつけを図っている。

・入学時のガイダンス、定期的な学生、教員へのお知らせにより、保健管理センター、学生相談室、校医相談の利用を促している。

・本学独自の奨学金制度により、授業料を減免又は奨学金を給付することで、学業への専念・学業成績等の向上を支援している。

・後援会予算を計上して施設設備の充実を図り、クラブ・サークル活動の活性化と支援を行っている。

・クラス担任制度により、教員が学生の学修、学生生活、将来等について個別に相談に応じるなどきめ細やかな支援を行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：https://www.shujitsu.ac.jp/about/torikumi/kenkyu/
https://www.shujitsu.ac.jp/about/torikumi/kouhyo/